

横浜市民ギャラリー「学校アートサポート事業 2002」報告

1. 横浜市立葛野小学校

テーマ「宇宙で友だち 宇宙の笑顔～宇宙で1つのおもしろ笑顔づくりを楽しもう～」

活動記録

横浜市立葛野小学校で参加してくれたのは6年生88人。カッティングシートによる切り絵をしました。普段使わない素材を使い、それぞれの自由な発想で宇宙人の百面相が完成。「横浜市こどもの美術展 2002」には出品されませんが、他の子どもたちも遊べる福笑いのマグネットボードも一緒に作成しました（制作時間3時間）。



完成作品

図工室には、色とりどりのカッティングシートが机の上にピシリ並べられていました。こんなにたくさん色が揃うとついウキウキしてしまうのはなぜでしょう？ その中から各自が好きな色を選び、さらに友達と半分ずつ交換して、様々な色のカッティングシートが手元に行き届きました。制作中は図工室に先生選曲のBGMが流れ、リズムを取りながら手を動かす児童もちらほら。



会ったことのない「宇宙人の顔（しかも笑顔！）を想像して作ってみよう」という先生からの投げかけから生まれた笑顔は、まさしく百面相。ぐるぐる目が飛び出したり、ギザギザ顔や、上下が分からないくらい不思議な顔、どの顔も個性的でチャーミングなものばかりです。



この作品はこどもの美術展終了後、葛野小学校のオープンスペースに展示されています。横にはマグネットボードを置いて、低学年の子どもたちも遊べるコーナーにするということです。

2. 横浜市立戸部小学校

テーマ「ひまわりいっぱい 戸部の夏」

活動記録

横浜市立戸部小学校で参加してくれたのは3年生51人。アルミの針金や画用紙を用いて作ったのはひまわりです。本物のひまわりを見たり触ったりしながら一人一人が等身大のひまわりを作りました。ひとりひとりの気持ちがいっぱいあったひまわりが集まって、戸部のひまわり畑が完成しました（制作時間 3時間）。



完成作品

初夏の体育館、戸部小学校の3年生の子どもたちが今までにないくらい真剣なまなざしでひまわりを見つめていました。先生が子どもたちの前で言いました。

「すてきなひまわりは「上手」なひまわりのことではないんだよ。心を込めて、ひまわりをよく見て、感動して作ることが大切なことなんだよ。」

自分の目でまっすぐひまわりと向き合ってみたら、色々な発見がありました。ひまわりの顔の裏側がどうなっているのか、種の部分は実は全部同じ色ではないこと、ひまわりの茎には細かい毛が生えていること・・・それぞれの発見が作品の中に反映されています。

自分が発見したことをみんなと教えあったりもしました。

「かっこいいことをやっている人がいたら聞いてごらん。」

これは競争じゃないんだよ。」

同じひまわりなのに、みんな違って、面白い作品になりました。



3. 横浜市立西が岡小学校

テーマ「わたしたちの地球～そこには人のよろこびがある くらしがある～」

活動記録

横浜市立西が岡小学校で参加してくれたのは6年生148人。セロハンと画用紙を使って切り絵を作りました。ただ切り絵といっても直径約4mの大きなもの。四季折々の景色や人の生活が、中央に置かれた明かりに照らされて、2層構造のビニール幕に描き出されます。

全体の構図を考える上で、実行委員会を設置、中休みを使って会議。それを各クラスに実行委員が持ち帰ってまたみんなで話し合い。総合学習の時間を使い取り組みました（制作時間 約10時間）。



完成作品

西が岡小学校は6年生全体で細かく役割分担をし、大作を完成させました。

まず、各クラスから検討委員が選抜され、委員会で共同制作のテーマを検討。

「わたしたちの地球～そこには人のよろこびがある くらしがある～」というタイトルの下、各クラスの中で風景班（ビニールシートの外側の層）、人物班（内側の層）に分かれてそのテーマにふさわしい風景を各クラスで考えました。

1組・・・山、川、星空

2組・・・西が岡小学校の周りの街並

3組・・・都会と田園風景

4組・・・虹、雲、太陽、鳩

人物担当の児童たちは、人が暮らす姿を特徴的に映し出すポーズを探して、黒い画用紙を切り抜きました。人物をどのように配置したら良いか、構図を考えながら慎重に貼っていきました。

風景担当の児童たちは、まず下絵を模造紙に描き、その上にビニールシートを敷いて、セロハンやビニールテープで絵を作っていました。6年生の教室のある4階では、いたるところに切り抜いたセロハンがひらひらと舞っていました。

作業の進め方も、ディレクターが各セクションにおいて決定していくクラスと、全体でわいわいと話し合いながら決めていくクラスと、各クラスの個性で全く違いました。

この作品は初めて横浜市民ギャラリーの展示室で組み立てられ、明かりがつけられました。内側の人物の層と、外側の風景の層とが重なって、西が岡小学校6年生たちの世界が展示室の壁いっぱいに広がりました。



4. 横浜市立東本郷小学校

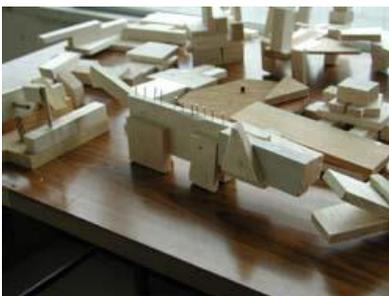
テーマ「ギコギコランドのゆかいな仲間」

活動記録

横浜市立東本郷小学校で参加してくれたのは、3年生29人と4年生110人。木工作品を制作しました。3年生はかなづちを使ってくぎを打つこと、4年生はのこぎりを使って木を切ることを思う存分楽しみました。その結果できたのは、動物や空想上の面白い形の生き物たち。横浜市こどもの美術展 2002 にはスペースの関係で全員は出品できませんでしたが、みんな素敵な作品をたくさん作ってくれました（制作時間 約6時間）。



完成作品



3年生と4年生の、一つ一つの作品も面白いですが、集まるとまるでおもちゃ箱のように賑やかな作品です。この作品の課題は「木」という素材に出会うこと。そしてどのように扱うかを知ることでした。「切って」「やすって」「釘を打って」と、木材を扱う基本を学んだ上、形を見たとて各自の「たのしいなかま」を組み立てました。

のこぎりの使い方、釘の打ち方、どのように使えば自分が思ったとおりになるのか？木をくるくるとひっくり返して、どこから切り始めたらいま切れるのか、釘が曲がらないように打つにはどうすればいいか、子どもたちは終始思索顔。木片をボンドでつけてもしばらくじっと押さえていないとすぐにとれてしまいます。自分で持ってきた硬い角材と格闘する子ども。それを手伝う友だち。そして紙やすりを丁寧にかけている間は友だちの作品を見たり、自分の作品について語り合う時間。それぞれのグループで話が盛り上がりました。

最後は好みで着彩、ビーズ、ゴム、釘などで装飾し、ロボット・翼のあるウサギ・龍・ワニなど様々な形になりました。

